

報道関係各位

日本製薬工業協会
会長 多田 正世

「第5回 アジア製薬団体連携会議」開催を受けて
－新薬の創出とアクセス改善に向けた APAC のさらなる挑戦－

4月7日から8日にかけて、「第5回 アジア製薬団体連携会議 ; **Asia Partnership Conference of Pharmaceutical Associations (APAC)**」が「革新的な医薬品をアジアの人々に速やかに届ける」というミッションのもと、「新薬の創出とアクセス改善に向けた APAC のさらなる挑戦」をテーマとして開催されました。

日本製薬工業協会といたしましては、下記の合意事項に基づき、今後もアジアの製薬団体、政府機関、規制当局、アカデミア等と協力・連携し、様々な課題の解決に取り組んでまいります。

全体

- APAC は、各国政府など多様なステークホルダーとの連携のもと、アジアにおける革新的な医薬品へのアクセス (ATIM) 改善に挑戦し続ける。
具体的には、規制・許認可および創薬連携における課題解決に引き続き取り組んで行くとともに、優先度の高い課題を新たに特定してその解決に取り組むことによって、アジアの人々の健康に寄与する。

規制・許認可(Regulations and Approvals ; RA)

- アジアにおけるレギュラトリー・コンバージェンス (薬事規制の国際協調) を実現するため、各ステークホルダーと連携しながら、**Good Registration Management** (医薬品の承認・登録のための管理原則) の重要要素である **Good Submission Practice** (医薬品の承認申請等の実施基準) の研修を実施する。

創薬連携(Drug Discovery Alliances ; DA)

- APAC DA-EWG のプラットフォームを活用し、アジア地域における創薬研究関係者の情報共有、ネットワーキング、人材育成のさらなる発展を図る。
- アジア発の革新的医薬品の創出を実現するため、アジア各国のアカデミアおよび企業がそれぞれの特長や強み、課題を理解して創薬連携の可能性を追求する。

その他

- 第6回 APAC は、2017年、東京において **Asia Regulatory Conference (IFPMA)** と合同で開催する。

－本件に関する問い合わせ先－